



緑爽会報 NO.118

13年 5月25日

発行

公益社団法人

日本山岳会 緑爽会

☎ 03-3261-4433

事務局 松本恒廣

夏原寿一 近藤雅幸

近藤 緑 川口章子

渡部温子 福原ナ子

平成13年度緑爽会総会終わる

総会は5月16日(木)午後1時半から始まった。松本代表の挨拶のあと、まず物故者に黙祷を捧げ、続いて12年度事業報告、決算報告、13年度事業計画案、予算案が審議され、異議なく承認された。詳細は別紙参照。総会終了後は、事務局用意の茶菓で休憩した後、関塚貞亨会員の講演「大正二年夏、上高地」に移った。下段にその要約を紹介する。



本年度総会 撮影 小泉義彦

〔出席者〕 山本良子・早川瑠璃子・国見利夫・梨羽時春・松本恒廣・近藤緑・関塚貞亨・里見清子・渡部温子・横山隆・奥野道治・鳥橋祥子・樋口公臣・島田稔・大山恭司・福原サチ子・渡邊正子・富澤克禮・夏原寿一・瀬戸英隆・田井具世・川口章子・深田森太郎・小泉義彦・渡辺恵美子・近藤雅幸 計26名

欠席者からのひとこと(順不同)

芳賀孝郎 昨年北大スキー部創立100周年記念行事があり、楽しく参加しました。JAC北海道支部の仲間、北大山の会の仲間と山を歩いています。一度、北海道企画をしてください。

五十嶋一晃 山桜会主催の「松尾峠遭難90年祭」に参加し、「大正期の立山案内人群像」松尾峠の遭難を巡る」と題してレクチュアを行いました。メディアも来ており、よい反応がありました。

梅本知榮子 決して良くならない膝と格闘するように、写真撮影を主体の山登りを続けています。未知の山城にある山に思いを寄せいつか登ろうと夢みていますが、やはり軸になるのは剣岳の写真撮影です。今年は剣岳の懷に飛び込んで撮影をしようと考えています。日本には魅力ある山がありすぎです。

福田光子 会報をインターネットで読んでおりましたが、それだけでは足りなくなり、入会をお願いしました。遠いですが、機会がありましたら例会にも参加したいと思います。

佐藤淳志 地方にいると「緑爽会」会報の届くのが唯一の楽しみで。生涯のフィールドワークになった鳥海山のイヌワシ生態調査、まもなく幼鳥が新緑の峰上りを背景に舞うことでしょう。会の行事に参加するよう努めます。

羽賀克己 近藤緑さん宛に送ってありますので、ご一覽を！(本紙2、3頁に掲載)

堀井昌子 一度も出席できず心苦しく思います。前日(15日)より仕事です。

高辻謙輔 19、20日、JAC中部ブロック四支部交流会が山梨であるので参加します。総会に出席して関塚貞亨氏の講演を聞きたかったのですが、残念です。

菅野弘章 老化ですが、山への高い志向に変わりはないつもりです。

藤本慶光 (病後) ストックを2本持ち、四本足でヨチヨチ歩いていますので、市ヶ谷の坂が登れません。ご盛会を祈り上げます。

平野紀子 残念ながら参加できなくなりました。関塚さんのお話、聴きたかったのに残念！

吉田理一 本年3月、43年間の教職を去りました。尾瀬・奥只見郷ネイチャーガイド、深田百名山の越後駒ヶ岳「駒の小屋」管理人。JAC編日本三百名山「八海山」担当と山関係の生活です。

川上進 昨年来肺病になり、2月の例会も途中で雨が降り、酸素罐と傘で引き返す現状です。

尾野益大 4月13、14両日に小島鳥水祭を開催しました。大変お世話になりました。近藤信行先生が撰文された碑文を建立しました。今後ともご指導お願い申し上げます。

西谷隆亘・可江 5月15、16日は東京多摩支部の「雲取山石積み歩道整備」に参加予定です。新入会員です。今後共宜しく願います。

★ほかに宮澤美渚子、大島洋子、中村好至恵さんからも来信がありました。

講演「大正二年夏、上高地」梗概
西暦1913年、今から百年前の上高地には、偶然のように山岳会の人たちが集まった。



まず、登山史に燦然と輝く「木暮理太郎と田部重治」による、槍ヶ岳から黒部源流の山々、五色ヶ原までの案内人なしの縦走があり、ウェストン夫妻と嘉門次、根本清蔵による槍ヶ岳及び奥穂高登攀(エミリー夫人の奥穂高登攀は女子としての初)。また慶応義塾山岳会の創設に関わった鹿子木員信、神戸一中在学中だが後に立教大学山岳部創設に関わる辻莊一、一高旅行部を創設した一高生の大木操らが偶然居合わせウェストンと交流した。茨木猪之吉、高村光太郎ら画家もウェストン夫妻や木暮ら、後に山岳会の第二世代に属する人たちと交流を持ち、数々のエピソードが生まれた。

東京高等師範中等部の生徒30人を始め中学生が徳本峠を越えて上高地に入り、槍ヶ岳に登頂しており、北アルプスは探検時代が終わわり、冒険時代に入った年として記憶されよう。詳しくは六月下旬に発刊される予定の『山岳』二〇一三年に掲載される。

(関塚貞亨記)

〔緑爽会6月山行〕

箱根飛龍ノ滝から湯坂道

日時 6月6日(木) 日帰り
コース 箱根湯本(バス) 畑宿—飛龍ノ滝—湯坂路入り口—鷹巣山—浅間山—湯坂神社—湯坂城跡—箱根湯本 地図 箱根
集合 箱根湯本駅改札 午前9時
9時15分箱根行バスに乗車
小田急新宿発7時01分 小田原
乗換 箱根湯本着8時56分
申込 松本 03-3326-2892 faxで6/3迄

〔近詠〕

ガン・ファイト（再入院編）

中野総合病院 2013年1/4日〜25日

狂歌師 翠柏山人

・順調に回復してると思いしに急の悪寒で再度の入院（1/4）

・予期せざる再入院に狼狽す臍を固めて手術も受容

・百歳までは生きると宣言したれども再入院で少し弱気に

・とは云えど新体験を樂しみつ初志貫徹と再度決意す

・入院し四日目にして排便す三日の昼の雑煮の残滓

・此の冬も遭難犠牲者多くして吾が屋久島の彼の日を想う（北ア他）

・吾が部屋の間換えむと思ひしに覚めればなんと雑居病室

・七草の粥を啜るも先送り怠らず行こう吾がガン・ファイト

・胃袋の代替させた小腸に捻じれが生じ再手術とは

・斯くなればチーム大野に身を委ね手術机に乗り横たわる（1/7）

・点滴に麻醉と呼吸や諸々のパイプ繋がれ白河屋船（金手術）

・目を覚まし傍で微笑む妻の手を固く握りて暫し離さず

・日常は悪罵雑言交せども妻の来院愛しく嬉し

・此頃は暴走老人増えしとふ不安を煽る世相なりせば

・会話をき家族なりせばつい怒鳴るそんな我が身を憎む吾を知れ



・ともかくも手術は無事に終りしとチーム大野に改めて謝す

・手術受け費す時間は惜しけれど生きてるこそその体験と承く

・日曜日吾が病室を訪ないて声掛けくれし主治医に感謝

・パイプ抜き流動食を少し食み糞シヨンペンを同時排出（1/10）

・洗濯機水漏れ故障で大変と来れぬ理由を妻は云いけり

・真夜中に軀シャックリ小止みなしそを持つ患者さぞ苦しかろ

・今宵またクシヤミに軀続けども同情する気なぜか消えたり（1/11）

・少しだけ小さくなれる軀にも時々混じる歯軋りの音（1/12）

・日に三度交替勤務すナースらの人数多く名を覚え得ず

・覚え得ず名を取り違う老人を優しく見護るナースを讃う

・背中拭きおやつ牛乳サービスにただ感謝のみナースの仕事

・蝦夷地では今日も真冬日その上に電力不足で緊急移入と（1/12）

・阪神と陸奥の人らが掌を合わす地震に遊きたる御霊に祈り（阪神大震災18周年）

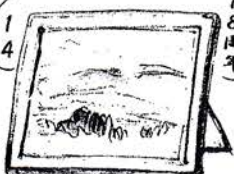
・妻が来てくれる嬉しさ有り難さ病に伏して沁み沁み思う

・小便の廁通勤二十四度これ果れたる点滴効果

・再手術終え殉日経ちて五分粥を食えた喜び妻に電話す（1/14）

・意精鋭判らんとするに妻は云うそのまま達磨になるも良からむ

・時ならぬ豪雪都心に降り積り二女の成人式日回想



羽田さんの逝去を悼む

緑爽会代表 松本 恒廣

羽田栄治さんには昨年秋頃より体調を崩され療養中のところ本年4月5日逝去されました。享年85歳。JACには1963（昭和38）年入会、紹介者折井健一、高橋照。会員番号5548。

羽田さんは1927（昭和2）年東京に生まれ、51（昭和26）年中央大学卒。旧制開成中学から山岳部に入り、中大山岳部に所属しながら安川茂雄氏等と日本山嶺倶楽部を創立。卒業後、中部日本ニュース映画社（現中日映画社）に入社し、主にニュース映画力メラマンとして種々の分野の映画取材に活躍、特に山岳部出身らしく登山技術を生かした登山隊同行記録作品や遭難取材に手腕を振るい「山の現場に羽田あり」と周囲の人達に言わしめた。

なかでも羽田さんにとって一番の出来事は谷川一ノ倉岩壁における自衛隊によるザイル切断作業の取材と豪雪時の北ア薬師岳における愛大生13名遭難を取材したことであったという。また60（昭和35）年、ジュガールヒマール隊に参加、ヒマラヤ初の35ミリ



忘年会で乾杯をする羽田さん（2011年）

シネスコの山岳記録映画を完成させ、前後して東京、札幌両オリムピックの公式記録映画には製作スタッフとして参加。81（昭和56）年、中日映画社を退社しフリーの映像作家として、山岳雑誌写真記事も数多く寄稿されている。

緑爽会との係わりは05年2月の例会で資料映像委員長として「映像で語る登山史の側面―奥山章の軌跡から」と題して講演して頂いたのに始まる。この時は奥山章の作品「ヒマラヤの休日―ディオ・ティバを滑る」を上映解説して頂いた。次いで翌年の辻村伊助旧居跡訪問に特別参加され、5月の総会から当会のメンバーになられた。以後、パーベキューパーティや暑氣払い・忘年会にも顔を見せてください、特に予定したプログラムに穴があくと「困った時の羽田頼み」で映画やDVDでカバーして大助かりのこともあった。09年の「映画剣岳点の記をめぐる」では布川・五十嶋両氏との鼎談の中で得意の映像作家としての立場から解説して頂いた。

資料映像委員長としては、百年記念の『写真で見る日本山岳会の一〇〇年』を編集されたり、村山、松丸さん達名誉会員を迎えて「語り継ぐ黎明期の登山」シリーズを続けられたり、山岳資料の整理保存に尽力された。また、日本山岳会評議員の他、日本山岳写真協会々長として矚目として活躍されていた。

常に物腰の柔らかな方であり、ユーモアがお好きで愛煙家でもあった。昨年来、病院へお見舞いに伺った時もステッキをつきながらもエレベーター迄見送ってくださいとお姿が臉に焼き付いている。心から「冥福を祈ります」。

（本稿はアルパイン・フォトクラブJAPV C ニュースに掲載した文に補筆したものである）

・時ならぬ都心に積りし大雪に家なき人らの命を案ず

・退院を巡りまたもや繰り返す帰るぞ来るなの夫婦論争（1/15）

・小雷を思わす響き暗闇に新たな野患者登場（1/16）

・救え子を殴りおまけに自死させた暴力教師大阪に在り（1/16 府立中高校）

・巻町の系癸モデルの映画試写外出許可得て鑑賞したり（1/19 「渡されたバトン」）

・練習のコートを巡り吾を叩き悔いた表情今も忘れず（長浦中・金子繁二先生）

・院内のシャワーでさっぱりしたれども風呂はやっぱり吾が家に限る（1/23）

・狡猾な官僚と組み大臣らは統べて並べる剣香施策

・故郷も住民の意思退けり自民過半の議会なりせば（1/23 新潟県議会住民条例案否決）

・テロリズム容認する気はあるなれど市民の殺傷断固許せず（1/24 サウジアラビア事件）

・この事件数多の人質死傷せりサウジ政府の強硬策も

・想定を大幅越えの入院も今日で打ち切り吾が家に帰る（1/25）

・流動の昼食を摂りともかくもヨタヨタしつつ辿りつきたり

作者から 2012年6月下旬に内視鏡検査で胃癌を宣告され、全摘出手術を受けてから半年あまりになりました。この間、心配して下さった多くの友人知己ならびに兄弟姉妹には懇切なお見舞いや激励を頂き、皆様の御好意に改めて感謝しております。

さて、身辺雑詠と仮称する短歌を、1日1首を目標に詠んできましたが、癌確認以降、病院暮らしでも自宅療養中も続けた歌が凡そ500首になりました。タイトルは、闘病をもじって詠んだ「吾が余命断じて癌に渡さぬと固く誓って療養に入る」から「ガン・ファイト」と決め、今回は再入院再手術の病院詠を中心にお届けします。「吾ながら駄作ばかりと思えども記録と残す病臥の狂歌」という次第で、妻へのいら立ちや不満もそのまま、社会事象なども不安定な病人の感情表現とご理解ください。いずれお付き合いが復活することをお約束します。羽賀克己

お浄土からのメッセーじ

宮澤美渚子

私は七十四歳の秋、プモリのC2まで到達したのが最後の山行になった。

その直後発病し、寛解に至ったものの、今年は八十路を迎える年齢になった。

未だに体調不良の時があり外出の予定が立たない。

昨年主人のピッケルを展示していただいた時以来、ご無沙汰なので、何とか行きたかった緑爽会の芦安山岳館見学も参加できなかった。

主人と初めて登った山は一九六三年正月の富士山だった。当時はテントもピッケルもアイゼンも靴もすべて重く、セフティーベルトもなく、フューラー結びのザイルワークだった。その後息子を連れ三人で毎年お節料理を持参して正月の富士へ行った。

子供にとって厳寒の富士は厳しかったに違いない。

何回かの冬富士で登頂できたのは三回に過ぎない。

主人から松濤明の話聞いたのは結婚後大分経ってからのことだったと思う。

『風雪のピバーク』から受ける内容とは異なる感覚で主人は松濤明を非難していた。当時北岳パトレス中央稜初登攀の功績は、先輩の前では何も発言できなかったのだろう。

今更ながらと思うけれど、主人に代わって当時を偲び、北岳山麓の芦安山岳館にピッケルを展示していただいたことを感謝している。

塩澤館長から送っていただいた「ザやまなし」に掲載されている写真を遺影の前に置き、最も良いところに納まったことを報告した。



富士山頂上直下での宮澤さん一家（1972年）

8495)だった頃、よく合宿に参加させていただいた。OBの方も同じテントで生活し、テント内の雑談で主人と同期の方から北鎌搜索のことを聞いていた。

主人は小柄だったせいかわりにグレイセイドが早く伝令を務めたという。

搜索中の逸話で、農大搜索隊の隊長は「松濤はどうでもいい。有元を捜せ」という指令だった、という話を聞いた。

主人の思いを察すると「さもあらなん」と密かに、はしたなくもほくそ笑んでしまった。

北鎌尾根の悲劇も歴史は遙か遠くなり、真実も消え去る中、私にとって北岳パトレス中央稜初登攀は主人を想う忘れがたい終生の宝と思っている。

老いて病に侵されたけれど、宮澤憲との内外の山行を振り返れば、家計の遣り繰りに苦労はあったが、年齢を重ねても、なお輝いた人生だと改めて思う。

私は山の知識も乏しく、技術も未熟、体力もなかったけれど自分に合った山々を踏破し、相方に恵まれたことを幸運に思う。

これからは頭も体も機能は下降していく。晩年に向かう日々は厳しくも、私なりの山有りてこそ、病も憂いも忘却。心に豊かさを得られたことを感謝したい。

生かされるは憐れ、自分を生き抜く底力は山々からの恵みだと思ふ。

私は千の風にならない。天国への道は行かない。

北岳とパンペマへ散骨を済ませたら、必ず訪れる来たるべき日、相方の待つお浄土山へ向かいたい。

(注：パンペマは一九六三年主人が隊長で挑んだトウインズ、一九九八年私が初登頂したクロスピークのベースキャンプである)

―後記に代えて―

★四国支部が建立した小島島水碑に刻まれた文章は、「山を讀する文」から、

昨日の我は今日の我にあらず

今日の我は

おそろく明日の我にあらずらむ

而してこれ向上の我なり

いよいよ向上して我を忘れ

程を遂げて自然に帰る

である。明治三十六年

夏、甲斐信濃の山々を

歴訪した折、台ヶ原の

宿で書いた文章の一節。

登山によって自我を向上

させるといふ心意氣を、

私たちも生涯持ち

続けて行きたいもの。

★自然保護全国集会是、

ずっと緑爽会の支援事

業として位置づけてきた。今年も7月6・7

日の土・日曜、立山で開催される。実行委員

長も事務局長も緑爽会員が務めている。どう

か多数のご参加をお願いいたします。

お問合せは川口章子 ☎ FAX 047-463-8721

または近藤雅幸 ☎ FAX 042-302-1487

FAX 042-361-1018 まい。

なお、永年続けて来た全国集会支援バスは、

都合により今年は実施することができません。

★恒例の暑気払いは7月25日(木)午後1時から

ルーム会議室で。★緑爽会では先輩方も、

明日を担う新しいメンバーも隔てなく交流し

ています。事務局に一部交代があり、福原サ

チ子さんが会計を担当することになりました。

スケッチやカットの中村好至恵さん、写真の

小泉義彦さんなど、いつも手早い対応で会報

編集を援けてくださっています。(近藤緑)

